令和８年度 第１回山形市スポーツ推進審議会

日時：令和８年９月８日（火）
午後３時３０分～
場所：山形市役所１１階　第会議室

次　　第

1　開会

2　委嘱状交付

3　文化スポーツ部長あいさつ

4　会長及び副会長の選任

5　議事
山形市スポーツ推進計画２０２８の進捗状況について資料１

6　その他
次期「山形市スポーツ推進計画」の策定について資料２

7　閉会

【五十音順】

No.	氏　名	役職等	出欠
1	石井　環（いしい　たまき）	山形県スケート連盟事務局長	出
2	小野　和行（おの　かずゆき）	山形市スポーツ少年団本部長	出
3	熊坂　香織（くまさか　かおり）（新）	一般社団法人日本パラ陸上競技連盟強化委員	出
4	鈴木　義則（すずき　よしのり）	山形市スポーツ推進委員協議会会長	出
5	土井　正路（どい　まさみち）	山形市中学校体育連盟会長 山形市立第九中学校長	出
6	福田　俊夫（ふくた　としお）	山形市健康づくり運動普及推進協議会副会長	出
7	逸見　良昭（へんみ　よしあき）	(公財)山形市スポーツ協会会長	出
8	松田　喜恵（まつた　よしえ）	山形市レクリエーション協会理事	出
9	横山　一則（よこやま　かずのり）	山形市体育振興会連合会副会長	出
10	渡邉　信晃（わたなべ　のぶあき）	山形大学社会共創デジタル学環　学環長	出

【事務局（山形市）】

氏　　名	部署名
松　沢　聖	文化スポーツ部　部長
花　輪　信　二	文化スポーツ政策調整監（兼）部活動地域展開推進室　室長
小野寺　孝	スポーツ課　課長
日　野　孝　寛	スポーツ施設整備室　室長
高　橋　克　彦	スポーツ課　課長補佐
鈴　木　泰　子	スポーツ課　スポーツ企画係　係長
大　場　俊　幸	スポーツ課　スポーツ交流係　係長
半　田　ルミ子	スポーツ課　スポーツ施設管理係　係長
羽　島　悠　平	部活動地域展開推進室副室長（兼）部活動地域展開推進係　係長
伊　藤　章　夫	スポーツ施設整備室　スポーツ施設整備調整主幹
林　部　和　貴	学校教育課　保健体育係　指導主事
安　達　茜	スポーツ課　スポーツ企画係　主査
齋　藤　駿　伍	スポーツ課　スポーツ企画係　主任

山形市スポーツ推進計画2028の進捗状況について

資料1

基本方針1　誰もが生涯にわたってスポーツに親しむ健康なまちづくり

基本施策名	基本施策		基本方針	
	達成度	平均点数	達成度	平均点数
1-1　生涯にわたりスポーツに親しむ機会の充実	○	4.00	△	3.36
1-2　郷土愛の醸成や定住につなげる若者のスポーツ参加の促進	×	2.00		
1-3　ウィンタースポーツへの参加の促進	○	4.00		
1-4　中学校運動部活動の地域移行	×	1.00		

評価結果

・各地区で行われるスポーツ大会や各種イベントへの参加人数等「誰もが生涯にわたってスポーツに親しむ健康なまちづくり」に係る成果指標は、横這いとなっており、事業内容の精査や情報発信の工夫等が必要がある。
・中学校部活動地域展開については令和8年3月に策定した「山形市部活動地域展開推進計画」に基づき、円滑な認定地域クラブ設立と持続可能な運営が行われるよう活動費などの支援をしていく。

基本方針2　スポーツを通じた活気あるまちづくり

基本施策名	基本施策		基本方針	
	達成度	平均点数	達成度	平均点数
2-1　スポーツの力による地域活性化と郷土愛の醸成	○	4.20	○	3.56
2-2　プロスポーツとの連携の推進	×	2.75		

評価結果

・一部雨天によるイベント中止により参加者減のイベントがあったものの、まるごとのマラソンの参加者やプロスポーツとの連携事業など「スポーツを通じた活気あるまちづくり」に係る成果指標については増加傾向にあった。引き続きスポーツの力による地域活性化とプロスポーツとの連携事業を進めていく。

基本方針3　市民のスポーツを支える

基本施策名	基本施策		基本方針	
	達成度	平均点数	達成度	平均点数
3-1　スポーツ施設の充実	△	3.5	△	3.5

評価結果

・「市民のスポーツを支える環境整備」に係る成果指標については、スポーツ施設の新設がなかったことから低調なものとなった一方でスポーツ施設利用者数は微増傾向を示している。
・西部工業団地公園内スポーツ施設については令和9年度の完成に向け進行している。

達成度	点数	達　成　割　合	
◎	5点	R7／目標値	達成 100%超
○	4点	R7／目標値	達成見込 70%～99%
△	3点	R7／目標値	未達成 30%～69%
×	1点	R7／目標値	未達成 0%～29%
－	－点	R7／目標値	評価不可

山形市スポーツ推進計画2028の進捗状況について（令和7年度の主な取組み）

資料１－２

基本方針	基本施策	主な取組及び「成果指標名」等	単位	R4	R5	R6	R7	R8見込	目標値 R9年度	達成度	点数	担当係（主）	令和7年度事業内容	取り組み内容と成果	課題	今後
基本方針１　誰もが生涯にわたってスポーツに親しむ健康なまちづくり	１－１　生涯にわたりスポーツに親しむ機会の充実	**スポーツ実施率（R7調査未実施） ※県政アンケートより**	%		58.3	60.8	60.8	60.8	65.0	○	4					
		(1)　多様で身近なスポーツ参加の機会・環境の充実 「地区スポーツ、レクリエーション行事への参加者数」	人	14,431	17,204	17,536	16,786	20,000	30,000	△	3	スポーツ企画係	①各地区（31地区）体育振興会主催事業 （ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ・ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞｺﾞﾙﾌ・ｿﾌﾄﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ・ﾎﾞｳﾘﾝｸﾞ・軽ｽﾎﾟｰﾂ等） ②山形市体育振興会連合会主催事業 ・10/12グラウンド・ゴルフ大会（雨天中止） ・11/3ソフトボール（雨天中止）・ソフトバレーボール交流大会 ③レクリエーションスポーツ育成奨励事業 （ﾊﾞｳﾝﾄﾞﾃﾆｽ・ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞｺﾞﾙﾌ・ｲﾝﾃﾞｨｱｶ・ﾐﾆﾃﾆｽ・市民ｺﾞﾙﾌ）	31地区の体育振興会へ奨励費事業を交付し大会の開催を支援した。地域におけるスポーツ活動の活性化が図られた。 山形市体育振興会連合会主催事業（ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ・ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞｺﾞﾙﾌ）が雨天中止になったことに伴い、昨年度と比較し参加者数の減少が見られた。	人口減少等による担い手不足から、地区体育振興会の運営体制や事業参加者数の確保に苦慮していいる状況がある。	生涯にわたりスポーツに親しむ機会と高齢者の健康寿命の延伸のための、既存の競技スポーツを定着させるとともに地域の方が楽しめる新たなスポーツも推進していく。参加者数を令和8年度末において「20,000人以上」を目指す。
		(2)　レクリエーションスポーツ等の育成 「山形市レクリエーション大会への参加者数」	人	320	376	377	331	380	380	○	4	スポーツ企画係	○日　時　　令和7年5月25日 ○会　場　　山形市総合スポーツセンター他 ○内　容　　第43回山形市レクリエーション大会（民謡・ｲﾝﾃﾞｨｱｶ・ﾐﾆﾃﾆｽ・ﾌﾗﾀﾞﾝｽ・あそびの広場・ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞｺﾞﾙﾌ・ﾊﾞｳﾝﾄﾞﾃﾆｽ・ﾀｰｹﾞｯﾄﾊﾞｰﾄﾞｺﾞﾙﾌ）	レクリエーション競技の体験会・競技会に係る開催運営費の支援により、大会の充実が図られると共に、市民交流やレクリエーションをする楽しみの提供を図ることができた。	人口減少による競技者の減少や高齢化による担い手不足等から、競技参加者が減少している。	広報誌、ホームページ等を通して情報発信するなど市民の関心を高めると共に、新たな募集方法を検討し、参加者数を令和8年度末において「380人以上を目指す。
		(3)　総合型地域スポーツクラブの活性化 「総合型地域スポーツクラブ数」	団体数	5	4	4	4	5	5	○	4	スポーツ企画係	山形市内 活動クラブ　4団体 ①NPO法人生涯スポーツ振興会（アプルス） ②ほなみふれあいスポーツクラブ ③山形市スポーツ協会スポーツクラブ ④特定非営利活動法人 山形TFC	山形市体育・スポーツ総合推進本部において、クラブの設立準備や、既存クラブの人材育成や会員増に向けた取組みについて支援を行った。	人口減少による会員数の減少や指導者の高齢化による後継者不足等がみられる。 中学生の部活動地域展開が進められている中において、その受け皿のひとつとしての役割も求められている。	新たなクラブの立ち上げを育成するため、関係機関からの情報収集を図っていき、クラブ数を令和8年度末において「5クラブ」を目指す。
		(4)　スポーツ少年団活動の活性化 「スポーツ少年団育成事業の優秀指定団数」	団体数	24	24	24	24	24	24	◎	5	スポーツ企画係	山形市体育・スポーツ総合推進本部において、スポーツ少年団活動の充実を図るため、スポーツ少年団本部が指定する優秀指定団について支援を行った。	活躍が期待されるスポーツ少年団への運営及び活動を支援し、少年団によるスポーツの育成が図られた。	人口減少による児童数の減少や指導者の担い手不足から、スポーツ少年団が減少が懸念される。	スポーツ少年団本部と連携し、優秀なスポーツ少年団に支援を継続し、優秀指定団を入替えつつ令和8年度末において「24団体数」を継続していく。
		(5)　市民が参加する大会・イベントの開催 「山形市スポーツフェスタへの参加者数」	人	2,687	3,750	3,326	4,140	5,500	7,500	△	3	スポーツ交流係	山形市スポーツフェスタ ○目　的　　市民誰もがスポーツや健康づくりに親しむきっかけづくりの場の提供。 ○日　時　　令和7年10月12日 ○会　場　　山形市総合スポーツセンター ○内　容　　元全日本バレーボール選手によるバレーボール教室など全28プログラム	平成18年度限りで廃止となった山形市民運動会のあと、市民が身近なスポーツに親しみ生涯スポーツを通じて健康な体づくりをできるようスポーツ参画促進を図る。	より参加者を増やすためイベント開催方法の検討や開催種目についての検討が必要である。	イベント開催方法の見直しのほか、既存のスポーツに限定せず、アーバンスポーツ、障がい者スポーツ、eスポーツ等の新たな体験プログラムを採用し、参加者数を令和8年度において「5,500人以上」を目指す。
		(6)　障がい者スポーツの普及・参加促進 「山形市民スポーツフェスタでの障がい者スポーツの種目数」	種目	1	1	2	1	1	1	◎	5	スポーツ企画係	○日　時　　令和7年10月12日 ○会　場　　山形市総合スポーツセンター ○内　容　　第18回山形市民スポーツフェスタにおいて、パラスポーツであるデフサッカーの体験会を行った。	障がい者スポーツ競技の体験会を実施し、市民への普及に努めた。障がい者スポーツへの理解と参加促進につながった。	障がい者スポーツの情報収集を図りながら、競技者の把握や市民の参加促進等をさらに進めていく必要がある。	新たな障がい者スポーツ競技の普及を図っていくために、種目数を令和8年度末において「1種目以上」実施していく。 また、山形県障害者スポーツ協会の協力を得ながら障がい者スポーツに関する情報収集を図る。
		基本施策平均								○	**4.00**					
	１－２　郷土愛の醸成や定住につなげる若者のスポーツ参加の促進	**(1)「（仮称）アーバンスポーツ普及方針」策定と推進** 「アーバンスポーツ普及に向けた競技団体との協議回数（累計）」	回		1	2	3	4	5	△	3	スポーツ企画係	○日　時　　令和7年10月12日 ○会　場　　山形市総合スポーツセンター ○内　容　　第18回山形市民スポーツフェスタにおいて、アーバンスポーツ「パラクール」の体験会を行った。	アーバンスポーツ普及方針を踏まえ、これまでの普及状況を検証しながら、市の方向性を検討していく。	ルール変更も多く、流行にも左右されやすい傾向がある競技のため、普及や環境整備の検討が難しい。	いわゆる発展途上のジャンルのため、普及状況等を慎重に見極め、更なる普及啓発やハード整備について検討する必要がある。
		(2)　冬季エックスゲームズ等の調査研究 「冬季エックスゲームズ等の調査研究した報告回数（累計）」	回		1	0	0	0	5	×	1	スポーツ企画係	なし	前年度の調査や聞き取りの実施結果から、広大なゲレンデが必要なことや、営業補償等の費用が膨大になる等の問題が明らかになっている。	広大なゲレンデが必要であり、長期間のスキー場使用となると、営業補償や運営等の費用が膨大になる。	スペースや費用の観点から、開催の実現は極めて難しい。新たな冬季スポーツを含め検討していく必要がある。
		基本施策平均								×	**2.00**					
	１－３　ウインタースポーツへの参加の促進	**(1)気軽にできるウィンタースポーツの環境づくり** 「新たなウインタースポーツのイベントの開催数」	開催数	1	1	1	1	1	1	◎	5	スポーツ企画係	山形市体育・スポーツ総合推進本部においてスノースポーツフェスティバル開催の支援を行った。 ○日　時　　令和8年2月28日 ○会　場　　蔵王温泉スキー場、竜山ゲレンデ、蔵王ジャンプ台 ○内　容　　スキージャンプ体験、スノーハイク体験、チューブ滑り、スキーでの100人トレイン等	蔵王スキージャンプ台を活用した「スノースポーツフェスティバル」開催の運営を支援し、ウインタースポーツの普及が図られた。年々参加人数が増加している。	スキー人口の減少や温暖化の影響により、ウインタースポーツができる環境が制限されていく。	様々なウインタースポーツをする事業の実施し様々な体験を通して普及を図り、今後も継続して支援していく。
		(2)　ウィンタースポーツ競技大会の開催 「女子スキージャンプワールドカップ蔵王大会観戦者数」	人	3,800	2,800	3,400	1,400	1,600	4,000	△	3	スポーツ交流係	FIS女子スキージャンプワールドカップ2026蔵王大会の開催 ○日　時　　令和8年1月20日から21日まで2日間 ○会　場　　アリオンテック蔵王シャンツェ ○参加選手　16か国100名	2026大会について雪は例年並みであったが、平日開催となり、人員が少ない中、会場準備等を行い2日間開催した。ウインタースポーツの魅力向上につながった。	2028年以降の大会についてはW杯の男女共同開催やラージヒルでの開催が検討されており、今年同様の開催となるか不透明な状況である。	2028年以降の大会について不透明な状況であり、スキージャンプ競技の普及・振興等のため、これまでと変わらない開催となるよう、FISに要望していく。令和8年度の観戦者数について「1,600以上」にしていく。
		基本施策平均								○	**4.00**					
	１－４　中学校運動部活動の地域移行	**(1)　部活動の地域移行** 「中学校運動部活動の地域移行率（休日）」	%		0	13.0	29.9	100.0	100	×	1	部活動地域展開推進室	運動部活動の地域展開 (1)「山形市部活動地域展開推進計画」の策定 (2)外部有識者との検討協議会・意見交換会の開催 (3)コーディネーターの配置（3名）による説明会・個別相談の実施 (4)実証事業の実施 (5)学校部活動実態調査の実施（令和7年度部活動総数214部）	受け皿になる団体に休日の活動をモデル的に委託する実証事業を実施し、その成果と課題について検討を行った。部活動からそのままスライドする形の「単体型」や競技団体等を受け皿とした「全校型」など、様々なモデルケースで取り組んだ。	令和8年度は、国及び県の財源が示されていたが、当市においては地域展開の過渡期であったことから、財源の事業スキームと合致せず、活用することができなかった。令和9年度は、今年度と同様の事業スキームであれば活用可能であると考えられるが、そのスキーム及び財源の規模については不透明な状況である。	本格化する休日部活動の地域展開に向け、今年3月に策定した「山形市部活動地域展開推進計画」に基づき、生徒たちの主体的な活動を促進するとともに、市が認定した活動を行う地域クラブには、種々の支援を実施していく。
		基本施策平均								×	**1.00**					
	基本方針平均									△	**3.36**					

基本方針	基本施策		主な取組及び「成果指標名」等	単位	R4	R5	R6	R7	R8見込	目標値R9年度	達成度	点数	担当係（主）	令和7年度事業内容	取り組み内容と成果	課題	今後
基本方針2　スポーツを通じた活気あるまちづくりの推進	2－1　スポーツの力による地域活性化と郷土愛の醸成	1　競技スポーツの活性化（アスリートの育成と活躍の支援）	**「'国際・全国・東北大会等開催数**	件		14	9	12	14	25	△	3	スポーツ企画係	（公財）山形市スポーツ協会に加盟するが主催・主管する東北・全国大会等の開催に係る大会に補助金を交付した。	リトルリーグ、小学生スピードスケート、バウンドテニス、ボウリング等の１２の大会開催に係る経費に対し補助金を交付し、支援を行った。	大会を安定して運営してもらえうるように、競技団体の組織強化について検討していく必要がある。	引き続き市民が高度な技術に直接触れる機会を創出していくため、開催地補助金を継続していく。
			(1) アスリートの発掘・育成 ジュニアスポーツ育成・強化事業での育成者数	人	432	458	401	666	700	500	◎	5	スポーツ企画係	山形市体育・スポーツ総合推進本部においてジュニア期の選手育成・強化に支援を行った。 （アイスホッケー、ラグビー、水球、陸上、ボクシング、スポーツクライミング、スケートボード、少年ジャンパー育成）	アーバンスポーツ（スケートボード・スポーツクライミング）を新たに加え、競技人口の確保及び競技力の向上を図るため、ジュニア世代の育成をしている団体等を支援した。 競技の普及と競技力の向上が図られた。	競技人口の減少と活動場所への遠征費等の支援が必要である。	競技力の向上を図るため、育成団体への支援を継続し、育成者数を令和8年度末において「700人以上」にしていく。
			(2) アスリートの活躍の支援 国際・全国大会出場者数	人	491	600	644	547	650	700	○	4	スポーツ企画係	オリンピックや世界選手権等の国際大会や全国大会出場者に対し出場奨励費を交付した。	国際大会や全国大会等に出場する選手に奨励費を交付し、選手の意欲を向上させた。	全国大会等に出場者を増やすため、ジュニア世代の育成強化が必要である。	引き続き、全国大会等に出場する選手に対し支援していき、大会参加の意欲の喚起につなげていく。
			(3) スポーツ指導者の養成・活用 競技団体指導者養成事業の支援団体数（累計）	団体	7	15	24	33	42	45	○	4	スポーツ企画係	山形市体育・スポーツ総合推進本部において、山形市スポーツ協会との連携により競技団体指導者育成事業に支援を行った。 （剣道、山岳、バドミントン、ラグビー、馬術、なぎなた、弓道、ミニテニス、空手道）	各競技団体の指導者養成を図るための講習会等への支援をした。指導者の育成、普及が図られた。	指導者の専門性の向上や、知識と技術の取得のため、継続的な支援が必要である。	競技団体の入替えを図りながら指導者育成を行い、支援団体を「9団体以上」を継続していく。
		2　スポーツによる交流人口・関係人口の増加と地域コミュニティの醸成	**(1) スポーツによる交流人口・関係人口の増加の推進** まるごとマラソン大会参加者数	人	3,614	5,438	5,993	6,269	7,770	6,000	◎	5	スポーツ交流係	山形まるごとマラソン大会の開催 ○日　時　　令和７年１０月５日（日） ○申込者　　ハーフ:5,004名　5km:532名　3km：241名 ファミリー:246組	ゲストランナーに男子マラソン日本記録保持者の鈴木健吾選手を迎え参加ランナーとともにハーフマラソンを走り大いに盛り上がった。	エントリー数の増加に伴って、エイドステーションの飲食物や給水量、会場のトイレ等の会場設備が不足している。	R8年度大会終了時に実施するアンケート結果を分析し、課題や改善点を次年度の大会運営に反映することで、参加者満足度の向上を図り、リピーター率「7割」を目指す。
			(2) 地域コミュニティの醸成 体育振興会連合会主催大会への参加者数	人	443	528	565	175	500	500	△	3	スポーツ企画係	山形市体育振興会連合会と連携したスポーツ大会の開催 ○10/12グラウンド・ゴルフ大会（雨天中止） ○11/3ソフトボール（雨天中止）・ソフトバレーボール交流大会	競技者同士の親睦と生涯スポーツの活性化が図られた。	人口減少による参加者の減少や地区体育振興会の担い手不足から、生涯スポーツの普及が図れなくなる。	参加チーム数を増やすため、参加資格等の緩和やルール改正を行い、参加者数を令和8年度において「500人以上」にしていく。
			基本施策平均								○	4.20					
	2－2　プロスポーツとの連携の推進		**(1) 体験教室・動画配信やイベント等による地元プロスポーツ団体との連携** プロチームとの交流イベント開催数	件	3	6	5	7	8	10	○	4	スポーツ交流係	(1)楽天イーグルス ①公式戦　令和7年6月10日　対中日ドラゴンズ ②鈴川小学校訪問 ③スポーツフェスタにおいて野球教室及びチアダンス教室 ④山大付属小学校訪問 ⑤ろっけんフェスタ (2)モンテディオ山形 ⑥スポーツフェスタにおいてサッカー教室 (3)パスラボワイバンス ⑦スポーツフェスタにおいてバスケットボール教室	ホームゲーム開催時のイベントの連携や子ども向け体験教室を開催した。身近でプロスポーツの魅力を観戦、体験することができた。	休日等のイベント会場を確保することが困難になっている。	イベントとの連携や体験教室を開催し、開催数を令和8年度末において「8以上」を開催していく。また楽天イーグルスファーム本拠地誘致実現を目指していく。
			(2) 試合開催時の使用料減免や募金活動等による地元プロスポーツ団体の活動を支えるための支援 「使用料を減免するチーム数」	件	2	2	2	2	2	3	△	3	スポーツ施設管理係	山形市総合スポーツセンター野球場（きらやかスタジアム）及び第一体育館で開催されたプロスポーツ公式戦の支援を行った。 ①楽天イーグルス ②パスラボワイバンス	ホームゲーム開催時の使用料を減免した。多くの市民がプロスポーツの観戦をすることができた。	毎年、ホームゲーム開催ができるよう様々な支援や要望または、施設及び備品を維持していく必要がある。	ホームゲームの開催できるよう施設を維持し、試合数を令和7年度末において「2以上」実施していく。
			(3) 楽天イーグルス山形市支援協議会設立 「公式戦開催数」	回	0	2	2	1	2	2	△	3	スポーツ交流係	「楽天イーグルス山形市支援協議会」による情報提供、各種イベント等賑わいを創出、公式戦時のボランティア活動等の実施 ①1軍公式戦（対中日ドラゴンズ） ○令和7年6月10日（日）（来場者数9，806人） ②その他事業 ○横断幕、ポスター、等による応援気運醸成活動 ○1軍公式戦開催要望活動 ○選手による野球教室の開催等（学校訪問・スポーツフェスタ）	楽天イーグルス山形市応援パートナーを募集し、公式戦開催の情報提供やボランティア活動を募ることで、公式戦開催の賑わいを創出するとともに観戦者が増加した。	毎年、一軍公式戦を開催してもらえるよう要望していく。	次年度も引き続き、公式戦を開催し、プロスポーツチームとの連帯によりプロスポーツの観戦やプロチームとの交流の機会を拡充し、スポーツ参画人口の拡大を図るとともに交流人口の拡大にも寄与するため、試合を令和7年度末において「2以上」開催していく。また楽天イーグルスファーム本拠地誘致実現を目指していく。
			(4) 部活動地域移行に向けたプロスポーツ団体との連携 「部活動地域移行に向けたプロスポーツ団体との連携数」	団体数	―	0	0	0	0	1	×	1	部活動地域展開推進室	部活動地域展開に向けたプロスポーツ団体との連携	部活動をそのまま地域に展開することを望む声が多かったことから、プロスポーツ団体との連携については行っていない。	連携の必要性について検討が必要。	「山形市部活動地域展開推進計画（令和8年3月策定）」に基づき、休日活動の地域展開を推進して行く。
			基本施策平均								×	2.75					
			基本方針平均								○	3.56					

基本方針	基本施策	主な取組及び「成果指標名」	単位	R4	R5	R6	R7	R8見込	目標値R9年度	達成度	点数	担当係（主）	令和7年度事業内容	取り組み内容と成果	課題	今後
基本方針3　市民のスポーツを支える環境整備	3－1　スポーツ施設の充実	**⑴　スポーツ施設の新設・拡充** 「スポーツ施設の新設数」	施設	0	0	0	1	0	3	△	3	スポーツ施設整備室	西部工業団地公園内スポーツ施設整備事業 ○施設整備工事（本部棟、選手控室、観客席、ダッグアウト等） ○用具庫及び管理等設計 ○用具庫及び管理等外構設計	令和6年度から引き続き施設整備工事を行うとともに、用具庫及び管理棟の設計業務委託等を実施した。	西部工業団地公園の公園部分（公園緑地課発注）の整備工事が、国の交付金の関係で当初予定より遅れている。	スポーツ施設整備工事（人工芝、フェンス、防球ネット等）、用具庫及び管理棟の整備を進め、令和9年度のスポーツ施設完成を目指す。
		⑵　スポーツ施設の維持管理・長寿命化 「長寿命化計画による施設の修繕箇所（累計）」	件	7	11	15	17	19	30	△	3	スポーツ施設管理係	山形市スポーツ施設の維持管理・長寿命化 ○山形市総合スポーツセンターテニスコート人工芝等改修工事 ○山形市総合スポーツセンター屋内プールろ過ポンプ更新工事	老朽化により、緊急的な改修が必要となった設備、備品を中心に改修を実施した。一時的な改修では、抜本的な解決とはならない設備、備品が増加している。	施設・設備の老朽化が進んでいる。優先順位をつけるなど計画的な改修等が必要となっている。	既存施設を末永く活用するため、計画的な改修を行うとともに、競技ルール変更や設備備品の老朽化へ対応し、良好なスポーツ環境を保持していき、修繕箇所を令和8年度末において「2か所以上」していく。
		⑶　広域利用施設の整備促進 「スポーツ施設利用者数」 ※スポーツ課所管施設	人	664,775	741,759	745,823	748,578	745,000	730,000	◎	5	スポーツ施設整備室	スポーツ施設の広域利用について ①山形県体育館・山形県武道館の整備促進 R6.10.10に取り交わした「山形県・山形市による新スポーツ施設整備の共同での検討に係る基本的な考え方に関する合意書」基づき、有識者による「県・市新スポーツ施設整備検討会議」を3回開催し施設の規模や建設候補地等について協議を行った。 ②屋外スケート場 県により多機能性を有する屋内スケート施設が整備されることとなったため、その施設の概要や利用状況等を検証した上で、再検討することとした。	広域利用に資するため、引き続き県・東北大会等の開催を支援した。	老朽化したスポーツ施設が増えていることから、長寿命化のため平準化した計画的な改修が必要である。	引き続き、広域利用を促進し、大規模な大会を開催していき、利用者数を令和8年度末において「745,000以上」にしていく。
		⑷　国民スポーツ大会に向けた環境整備 「国民スポーツ大会の開催に関する動向の報告回数（累計）」	回			1	2	3	4	△	3	スポーツ企画係	令和18年度から3巡目となる予定の国民スポーツ大会について、開催方法等の情報収集	日本スポーツ協会において、大会のあり方を議論する有識者会議による提言が令和7年3月に出され、提言に基づき、具体的な検討を進める組織として、「国スポ改革タスクフォース」を設置し、提言の具体的な実行に向けた体制を整えるため、議論されている。	日本スポーツ協会の今後の展開を注視していく必要がある。	これまでスポーツ施設の整備等や競技者の強化につながっているため、今後の動向を注視していく。また、国へ開催地の負担軽減となる支援を求めていく。
基本方針平均										△	**3.50**					

資料２

次期「山形市スポーツ推進計画」の策定について

「山形市スポーツ推進計画２０２８」は計画期間を令和５年度から９年度までの５年間と定めており令和９年度は最終年度となり、これに伴い山形市といたしましては令和９年度中に次期計画を策定することとしております。

策定に当たりましては、山形市スポーツ推進審議会条例第３条に基づき、市長の諮問に応じて、審議委員の皆様からご審議いただく予定となっております。

〇山形市スポーツ推進審議会条例（抜粋）

（任務）

第3条　審議会は、法第 35 条に規定するもののほか、市長の諮問に応じて、スポーツの推進に関する次に掲げる事項について調査審議し、及びこれらの事項に関して市長に建議する。

（1）法第 10 条第１項の規定によるこの市のスポーツ推進計画に関すること。

（2）スポーツの施設及び設備の整備に関すること。

（3）スポーツの指導者の養成及びその資質の向上に関すること。

（4）スポーツの事業の実施及び奨励に関すること。

（5）スポーツの団体の育成に関すること。

（6）スポーツによる事故の防止に関すること。

（7）スポーツの技術水準の向上に関すること。

（8）前各号に掲げるもののほか、スポーツの推進に関すること。

【令和９年度山形市スポーツ推進審議会　開催スケジュール（予定）】

〇第１回審議会　　令和　９年　６月

〇第２回審議会　　令和　９年１１月～１２月

〇第３回審議会　　令和１０年２月

【スポーツ基本法に基づき国が定める「スポーツ基本計画」】

⑴ 現「第３期スポーツ基本計画」

① 策定日：令和４年３月２５日

② 計画期間：令和４年度から８年度までの５年間

⑵ 次期「第４期スポーツ基本計画」

① 策定時期：令和９年３月（予定）

② 計画期間：令和９年度から１３年度までの５年間

③ 第３期からの変更の概要

第３期計画では「誰もがスポーツを楽しみ、スポーツの価値を享受できる環境づくり」を目指すものであったのに対し、次期（第４期）計画では「スポーツを通じて、健康・幸福（ウェルビーイング）だけでなく、地域・経済・社会の課題解決につなげる」ことを目指すものとなる予定。